

宇陀市
近鉄榛原駅周辺地区
まちづくり基本構想

平成 29 年 3 月

宇陀市近鉄榛原駅周辺地区まちづくり基本構想
目次

1. 構想の目的等と位置づけ	1
1-1 構想策定の背景と目的	1
1-2 対象地区の位置及び区域	2
1-3 基本構想の位置づけ	3
2. 地区の沿革と近年の取組み	4
2-1 沿革	4
2-2 近年のまちづくりに関する検討と活動の経緯	5
3. 近鉄榛原駅周辺地区の現況と課題	6
3-1 宇陀市の玄関口としての現況と課題	6
3-2 緑地及びレクリエーション機能等に関する現況と課題	8
3-3 都市機能等に関する現況と課題	11
3-4 居住環境に関する現況と課題	13
3-5 交通利便性に関する現況と課題	16
3-6 まちづくりの課題図	21
4. まちづくりのコンセプトと基本方針	22
4-1 コンセプト	22
4-2 地区構造	22
4-3 まちづくりの基本方針	23
4-4 まちづくり構想図	24

1. 構想の目的等と位置づけ

1-1 構想策定の背景と目的

本市は、昭和 50 年代より一貫して少子高齢化が進行しており、総人口は平成 7 年に減少に転じ、「宇陀市人口ビジョン(平成 27 年 12 月)」では平成 32 年には 2.9 万人、平成 52 年には 1.9 万人に減少すると見込まれている。人口の減少に伴って就業者数も減少傾向にあり、産業 3 分類の各産業とも就業者数は減少している。都市計画マスタープラン策定に伴うアンケート（平成 25 年 1 月）において高校生の将来意向をみると、将来の就職希望先で本市内を希望するのは 4%、将来の居住地では 2%である。

このような背景の中、本市のまちづくりを総合的・計画的に推進していくことが強く求められている。そこで、平成 27 年 12 月に、地域の活性化や魅力あるまちづくりのためにイノベーションをするべく、今後 5 カ年の目標や施策の基本的方向、具体的な施策等をまとめた「宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。また、奈良県と本市との間で、本市内のまちづくりに係る取組に関して、包括的な連携と協力に関する「奈良県と宇陀市のまちづくりに関する包括協定」が締結された。さらに、地域のまちづくりに関心のある地元住民組織が自主的なまちづくり活動を行っている。

これらの状況を踏まえて様々な関係者との調整・連携を図り、本市及び本基本構想の対象地区の特性を活かしながら地区の活性化につながるまちづくりの将来像を明らかにし、官民が協働して賑わいのある持続可能な拠点地区のまちづくりのあり方を示した「宇陀市まちづくり基本構想」を策定する。

1-2 対象地区の位置及び区域

本基本構想の検討対象区域は、下図に示す通り、国道をはじめとする主要な道路、字界に囲まれた市街化区域を主とする右下図の範囲とする。



図 対象地区の位置

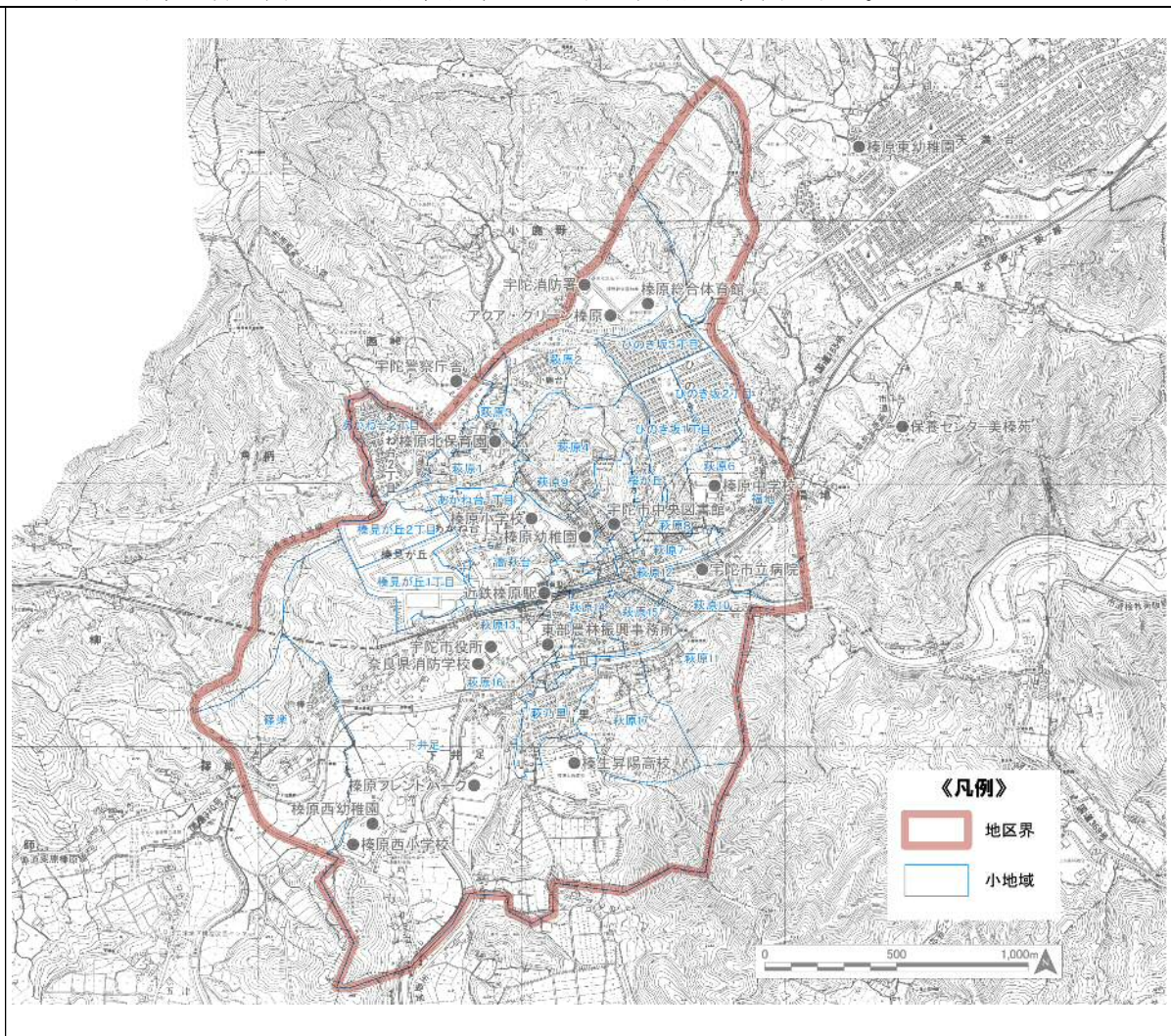
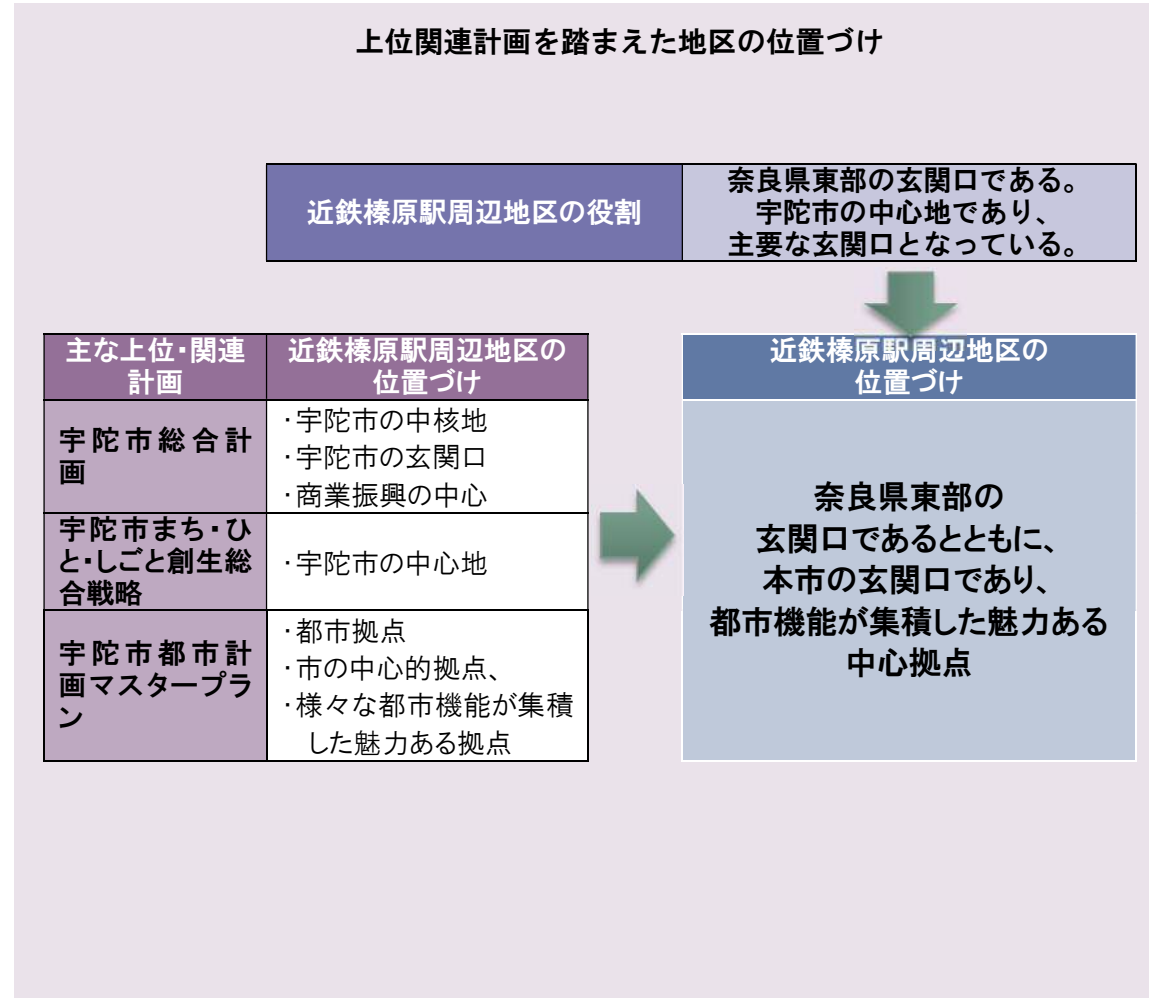
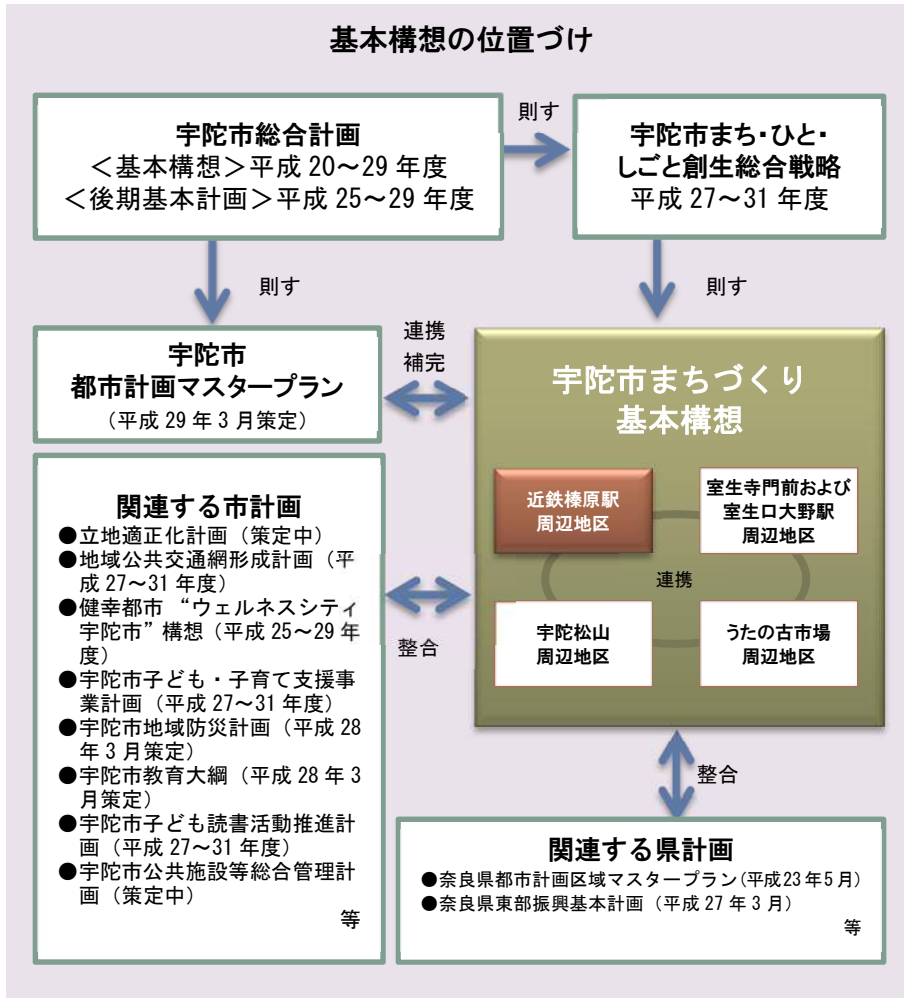


図 対象地区の区域

※「図 対象地区の区域」に示す小地域とは、平成22年国勢調査において詳細な地域分析を行うことを目的として町丁・字等の別に集計された調査区域

1-3 基本構想の位置づけ

基本構想の位置づけ、上位関連計画を踏まえた地区の位置づけは、下記に示す通りである。



2. 地区の沿革と近年の取組み

2-1 沿革



図 宇陀市歴史文化館 旧旅籠あぶらや

近鉄榛原駅周辺地区は、古くは伊勢本街道の宿場町であった。宇陀市歴史文化館旧旅籠あぶらやは、「伊勢本街道」と「あを越え道（初瀬街道）」の分岐である札の辻の前にあり、現在も多数残る町家とともに宿場町の名残を残している。

昭和2年に大阪電気軌道（現近畿日本鉄道）が伊勢と結ぶために参宮急行電鉄を設立し、昭和5年（1930年）近鉄榛原駅が開設された。翌年の昭和6年に宇治山田まで開通した。

昭和48年（1973年）に、当地区で最初の宅地開発である天満台団地及び萩乃里団地が着工され、昭和51年に完成した。

その後昭和49年（1974年）にあかね台団地（～昭和53年）、昭和58年（1983年）にひのき坂団地（～昭和63年）及び白樺台団地（～平成元年）が着工された。

さらに、昭和59年（1984年）に第39回国民体育大会が奈良県において開催され、旧榛原町では空手競技が開催された。昭和62年（1987年）に公共下水道が供用開始され、平成4年に榛原駅北特定土地区画整理事業、平成12年に榛原井之谷特定土地区画整理事業が竣工、平成15年には近鉄榛原駅が特急停車駅となった。

以上のように、近鉄榛原駅周辺地区は、伊勢本街道と初瀬街道の分岐に立地する宿場町として賑わってきたが、近鉄大阪線の開通と近鉄榛原駅の開設により、大阪への交通利便性が飛躍的に高まり、複数の宅地開発を誘発し、ベッドタウンとしての性格を強めることとなった。同時にまちの中心が、伊勢本街道から近鉄榛原駅付近へ移動し、現在の姿へと至っている。

資料：宇陀市ホームページ等

■旧榛原町の沿革

明治26年（1893年）	町制施行により、榛原村が榛原町となる
昭和5年（1930年）	参宮急行電鉄（近鉄）榛原駅開通
昭和20年（1945年）	榛原空襲
昭和45年（1970年）	都市計画区域決定
昭和48年（1973年）	天満台団地・萩乃里団地（～昭和51年）着工
昭和49年（1974年）	あかね台団地（～昭和53年）着工
昭和58年（1983年）	ひのき坂団地（～昭和63年）・白樺台団地（～平成元年）着工
昭和59年（1984年）	第39回国民体育大会開催、榛原町で空手道競技
昭和62年（1987年）	公共下水道供用開始
平成4年（1992年）	榛原駅北特定土地区画整理事業が竣工
平成12年（2000年）	榛原井之谷特定土地区画整理事業が竣工、名称は、榛見が丘
平成15年（2003年）	役場新庁舎が完成、近鉄榛原駅が特急停車駅に
平成16年（2004年）	国道369号線榛原バイパス開通
平成18年（2006年）	大宇陀町、菟田野町、室生村と合併し、宇陀市に



図 榛原駅周辺地区（市撮影）

2-2 近年のまちづくりに関する検討と活動の経緯

(1) 市街地整備に関する経緯

- 平成 18 年度に都市再生整備計画と併せて駅前再開発（JA 跡地とその周辺）の検討を行った。
- 平成 21 年 3 月に「自信と誇りと元気を取り戻し、にぎわいの溢れるまちづくりの推進」を目標として掲げた都市再生整備計画（榛原地区）を策定し、事業を推進した経緯がある。

(2) 地域活動に関する経緯

① 榛原地区まちづくり協議会（H26 年 2 月設立）

- 榛原小学校区内地域の住民相互の交流及び子どもの成長を見守りつつ、地域の振興発展に関する課題について取組み、生活環境の保持・改善に努力し、文化・福祉の向上と豊かで住みやすい地域づくりに寄与することを目的に平成 26 年 2 月 22 日に設立した。
- 宇陀マルシェ&産直市場や子どもお弁当開発プロジェクト、子ども自転車教室などの活動を行っている。

② 大王地区まちづくり協議会（H27 年 7 月設立）

- 大王地区まちづくり協議会は、地区の住民相互の交流と親睦を図り、共通の利益の増進、生活環境の保持・改善に努力し、文化・福祉の向上と豊かで住みやすい地域づくりを寄与することを目的に平成 27 年 7 月 5 日に設立した。
- 「米ぬかで地域再生プロジェクト」が宇陀市まちづくり活動補助金事業となり、米ぬかクッキー（RICE BRAN）の商品開発を行い、「うだ産フェスタ 2016（平成 28 年 10 月 29 日～30 日、榛原総合体育館）」に出品した。

③ その他

- 伊勢本街道周辺では、毎年おかげ祭り実行委員会による伊勢街道及びその周辺を舞台とした地域イベントが開催されている。



図 宇陀マルシェの様子

出典：宇陀市ホームページ

RISE_BRAN（米糠）クッキー完成

糠は糠漬けや肥料として再利用するなど多くの人は糠を食べるといったイメージが無いかと思いますが、しかし米ぬかには玄米がもつ90%以上の栄養分が含まれています。そんな栄養価の高い米ぬかを「食材」として使用し手軽で美味しく栄養を取れるよう考え商品開発を行いました。

[Facebookをご覧ください（外部サイトヘリンク）](#)



うだ産フェスタ2016に出店します！！

ご来場おまちしております

- 日時：平成28年10月29日、30日_午前10時から午後4時
- 場所：宇陀市総合体育館
- [うだ産フェスタチラシ（PDF：2.547KB）](#)

図 商品化した米糠クッキー

出典：宇陀市ホームページ

3. 近鉄榛原駅周辺地区の現況と課題

3-1 宇陀市の玄関口としての現況と課題

広域的な玄関口

○近鉄大阪線により大阪方面、三重県方面と結ばれており、市内各地だけでなく奈良県東部のアクセス拠点となっている。



図 近鉄榛原駅周辺地区の立地

○宇陀市観光案内所「うだ観処」が近鉄榛原駅南側に設置されている。
○特産品の購入ができる場所がないなど、観光案内・情報発信機能は限定なものにとどまっている。



図 宇陀市観光案内所「うだ観処」

課題

◇宇陀市の玄関口のみならず、奈良県東部の玄関口でありながら、観光案内や情報発信機能が弱い。

駅前商店街

○本地区は公共・公益施設等の都市機能が集積する市民生活、公共公益サービスの拠点。コンパクトな市街地を形成している。
○駅前商店街では事業所数、従業員数等が大幅に減少している。

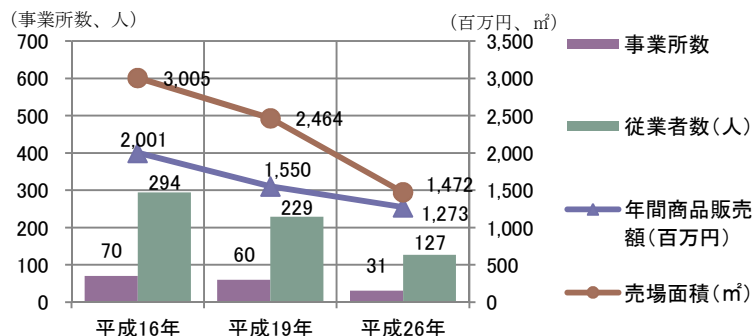


図 駅前商店街の事業所数等の推移

資料：商業統計調査

○駅前商店街は空き店舗やJAならけん跡地をはじめとする未利用地が多数分布。



図 JAならけん跡地



図 駅前商店街の空き店舗

◇空き店舗等が増加するなど、駅前商店街の活力が大幅に衰退。

- 近鉄榛原駅の南北の駅前広場は、それぞれ近鉄電車とバスやタクシー等の乗り継ぎ拠点となっている。
- 南北の駅前広場は、近隣の開発団地等から近鉄電車を利用する通勤・通学者を送迎する自家用車の一時駐車スペースや乗降スペースが不足している。



図 南口駅前広場のバス発着所



図 近鉄榛原駅北口駅前広場の様子（平成 28 年 3 月 8 日撮影）

出典：市道東町西峠線開通に伴う交通現況調査及び検討業務委託報告書

- 近鉄榛原駅前にミスタードーナツ（8:00～21:00）、茶店珈琲（7:00～19:00）などの店舗があるものの、特産品の購入ができる場所、飲食の場所や休憩する場所、特に夜間、電車やバスを待つ空間など市民や来訪者の近鉄榛原駅利用時や乗り換え待ちの際の利便性が確保されていない。

- 宇陀市観光案内所「うだ観処」では、観光客等の移動手段として電動自転車をレンタサイクルとして提供し、市や観光協会のホームページ等で情報発信を行っている。
- 奈良県内では、広域周遊観光を促す取組として、「ならクル」というサイクリングルートの設定、サイクリングの楽しみ方やレンタサイクルの情報等について、奈良県自転車利用総合案内サイトで情報発信を行っており、「うだ観処」のレンタサイクル情報も掲載されている。
- レンタサイクルは市内5箇所の拠点で貸し出し・乗り捨てができる。年間利用者数は増加傾向であるが、「うだ観処」での貸し出し台数は年間 258 台にとどまっている。

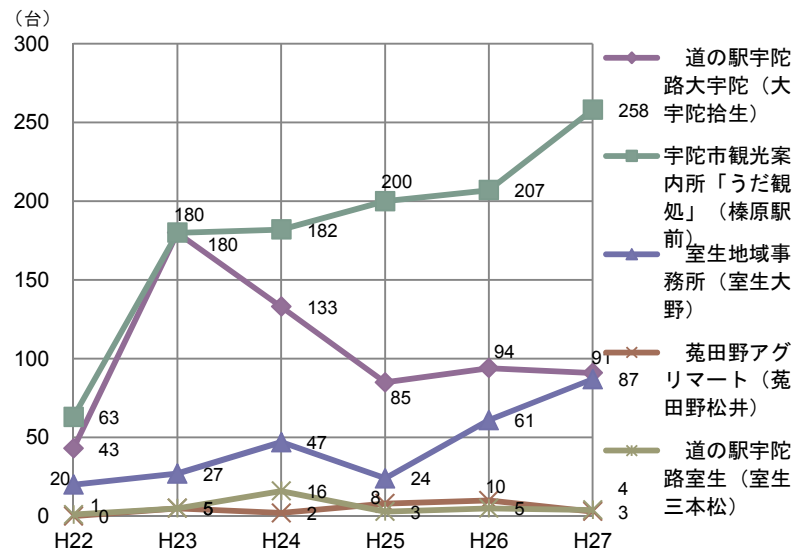


図 レンタサイクル貸し出し台数の推移

資料：市資料

課題

- ◇南北の駅前広場では、通勤・通学者の送迎車両の集中により、渋滞が発生。
- ◇市内及び広域でのホームページ等によるレンタサイクルの情報発信が行われているものの、宇陀市内では十分にレンタサイクルが活用されていない。
- ◇近鉄榛原駅利用や乗り換え待ちの際の利便性が確保されていない。

3-2 緑地及びレクリエーション機能等に関する現況と課題

運動・レクリエーション機能

- 宇陀市立榛原総合体育館、アクアグリーン榛原、榛原総合運動場といった大規模な運動施設が集積。
- 榛原総合体育館は、昭和59年（1984年）に奈良県において開催された第39回国民体育大会で空手競技の会場となった。
- 宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略において、地域資源を活かした観光戦略の一つとして「健幸都市宇陀ならではのスポーツツーリズムの推進」が位置づけられている。
- 健幸都市・ウェルネスシティ宇陀市の取組の一環として「還暦野球のまち・宇陀市」を宣言し、市内にて大規模な大会を年に数回開催し、全国から参加者が来訪している。
- 大規模なスポーツイベントの際、参加者の更衣等の空間が不足している状況が見られる。
- 施設や設備には経年劣化がみられる。
- 榛原総合体育館は援助物資の集積中心拠点となっている。（宇陀市地域防災計画）
- 榛原総合体育館付近は大規模災害時の防災拠点、受援活動の拠点としてのポテンシャルがある。



図 集積する運動・レクリエーション施設

資料：市資料

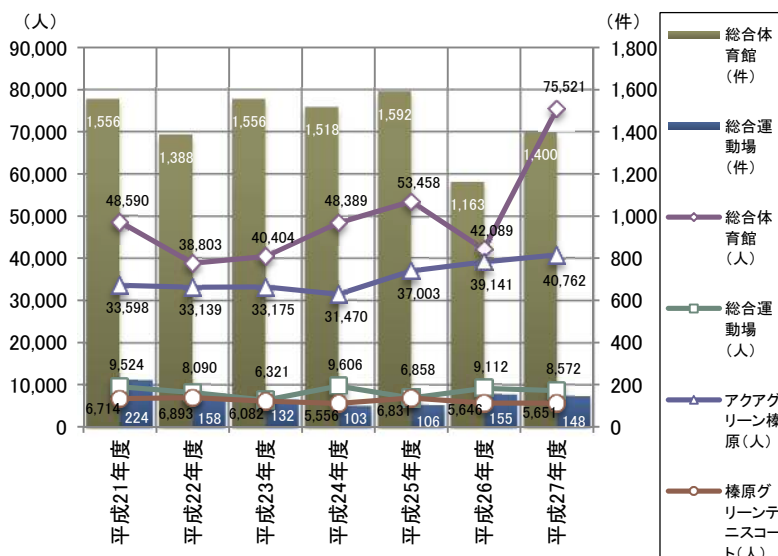


図 利用者数・利用件数の推移

資料：市資料

※総合体育館の平成27年度は、高校総体(空手)が開催されたため、例年に比べ人数が大幅な増となっている。

※アクアグリーン榛原には、フィットネスルーム、アスレチックルーム利用者も含む。

※平成28年の総合体育館及び運動場のうち、広域的なスポーツイベントの利用日数は下表の通り。

規模	総合体育館	日数
全国	還暦野球大会	1
関西	全国都道府県対抗中学生バレーボール大会近畿社行大会	3
	綱引き近畿大会	
	小学生バドミントンABC予選会	
規模	総合運動場	日数
全国	還暦野球大会	14
関西	全日本学生選手権関西地区予選大会(インカレ)	5

課題

◇大規模な運動施設が集積しているものの、施設の老朽化や機能の不足などがみられる。

- 市内の宿泊施設は小規模なものが中心である。
- 近鉄榛原駅付近には宿泊施設が立地していない。



図 宇陀市内の宿泊施設の分布

- 宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略において、以下の様に位置づけられ、スポーツツーリズムの普及と宿泊事業者の誘致を目指している。

2. 地域資源を活かした観光戦略
 自然、歴史、文化、景観など、宇陀市が全国に誇る豊かな地域資源を積極的に活用し、近隣自治体との広域連携をはじめとする観光戦略により、来訪者の増加を図り交流を活発にします。
 ■宇陀市への関心や興味を持ってもらえるよう、地域の魅力を発信するとともに、様々なイベントの開催や受け入れ態勢を整えます。
 ■スポーツツーリズムのより一層の普及により、宇陀市民だけではなく、広く市外からの来訪者との交流を深めます。
具体的な事業→「宿泊事業者誘致事業」: 昭和55年に建設された「保養センター美榛苑」について、豊富な地域資源や立地条件を活用できる宿泊事業者を誘致し、公設民営から民設民営へと運営形態を移行し、宿泊観光客数の増加を図る。

- 還暦野球などのスポーツイベント開催時は、大会ホームページ等で保養センター美榛苑など市内の宿泊施設を紹介・推薦しており、宿泊利用につながっている。
- 以上の一連の取組と現状を踏まえ、運動・レクリエーション施設と連携しやすい宿泊機能の整備が期待されている。

- 市内最大規模の宿泊施設「保養センター美榛苑」は市の施設であり、指定管理者により運営されている。
- 日帰りやレストランを中心に利用客は減少傾向である。
- 宿泊客も減少傾向であったが、平成23年の15,812人を境に上昇に転じ、平成27年は20,458人まで増加した。
- 設備や内装等の古さなど施設の魅力という面で課題が見られる他、一部旧耐震基準の箇所があり、施設の更新あるいは代替施設の確保が必要な状況であるが、市の財政状況等から、公設の施設として積極的に大規模な投資をするには限界がある。
- また、宿泊施設の経営においては時代のニーズに即時に対応するようなサービス提供が望ましいことから、民間の経験とノウハウを積極的に活用することが必要。



図 保養センター美榛苑の外観

資料：保養センター美榛苑リーフレット

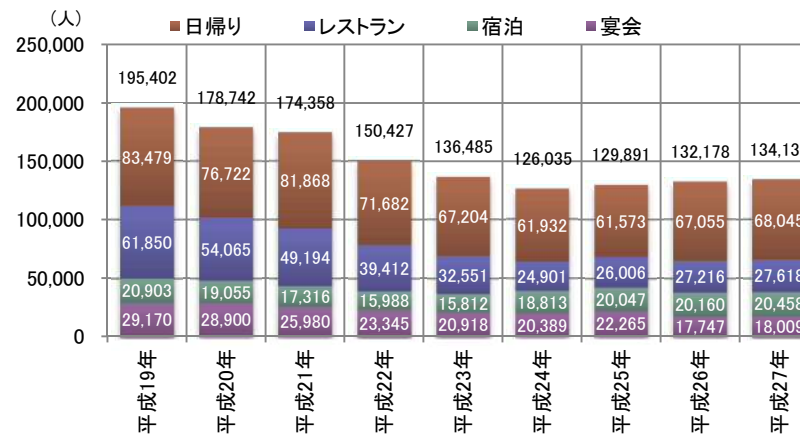


図 保養センター美榛苑の利用客数の推移

資料：市資料

課題

- ◇市内最大規模の宿泊施設は老朽化しており、代替施設が必要。
- ◇宿泊施設の経営においては、民間の経験とノウハウを積極的に活用することが必要。

- 対象地区内には街区公園等が 19 箇所、地区外ではあるが、誘致圏（250m）が対象地区内となる街区公園等が 1 箇所整備されている。
- 計画的に整備された市街地を中心に都市公園が多く分布しており、徒歩圏を広くカバーしている。
- 国道 165 号、369 号、370 号及び市道玉立 2 号線等は緊急輸送道路に位置づけられている。（宇陀市地域防災計画）
- 宇陀消防署に近接する榛原総合体育館は援助物資の集積中心拠点となっている。（宇陀市地域防災計画）（再掲）
- 大規模災害時に、市役所、奈良県消防学校、榛原総合体育館、宇陀消防署、指定避難所等との連携を確保することが重要である。
- ひのき坂西側にある市有地（現在未活用）等を活用し、大規模災害時に被災者の一時受け入れ機能のある公園等を整備し、榛原総合体育館、宇陀消防署、また、前ページに記載した宿泊施設等と一体的に連携することで、防災機能の強化・充実を図ることができる。また、併せて、各施設間の導線を確保することが求められる。

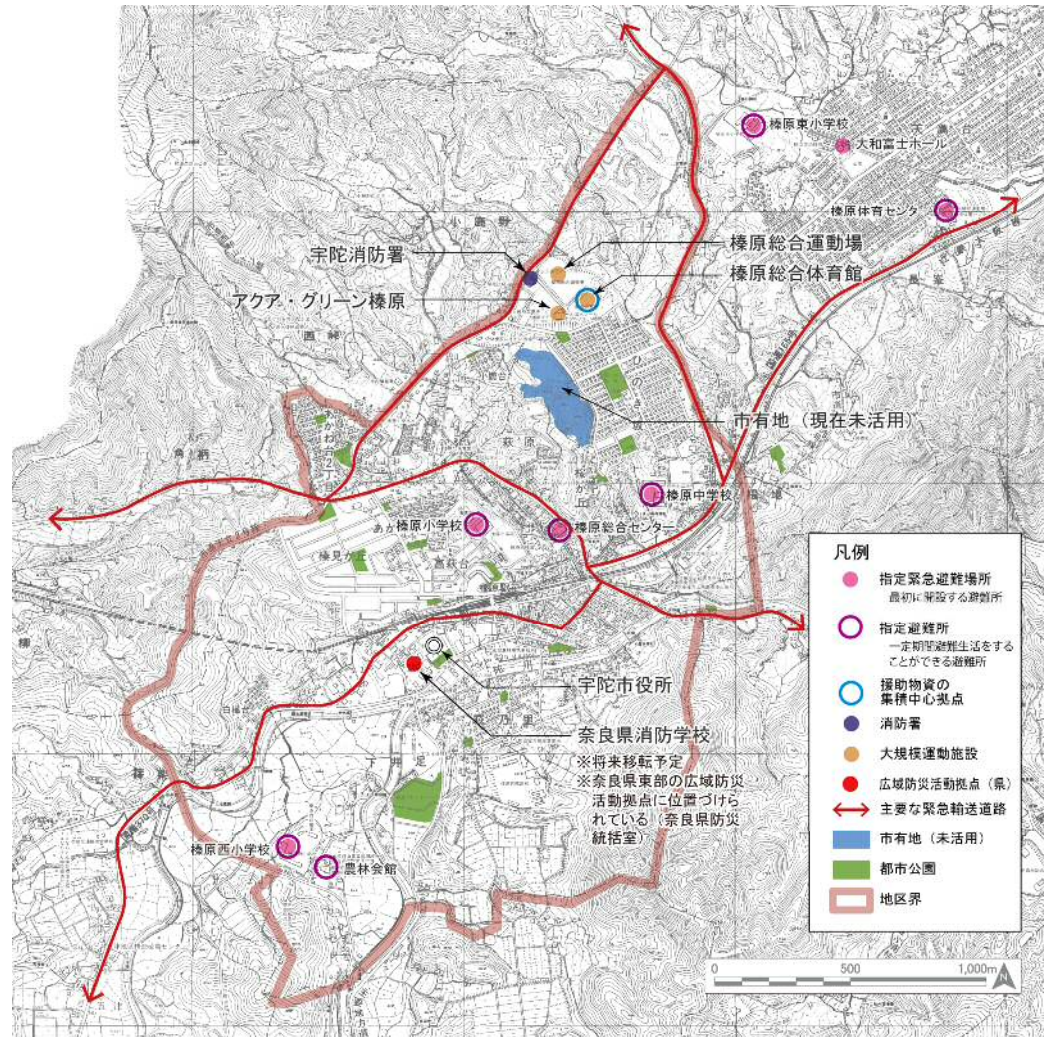


図 防災拠点等の位置

資料：市資料

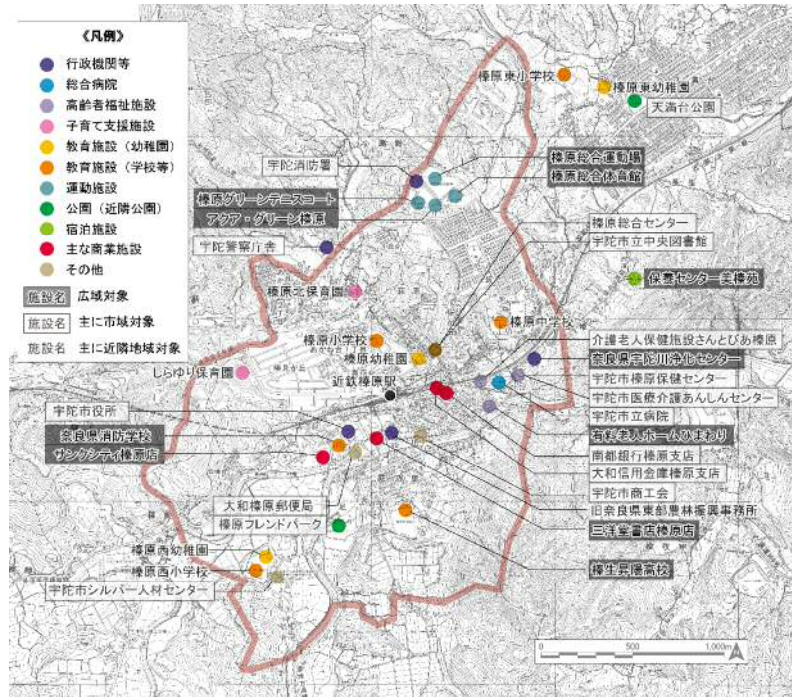
課題

◇未利用の市有地の活用及び既存施設等と一体的に連携した、防災機能の強化・充実及び施設間の導線確保が求められる。

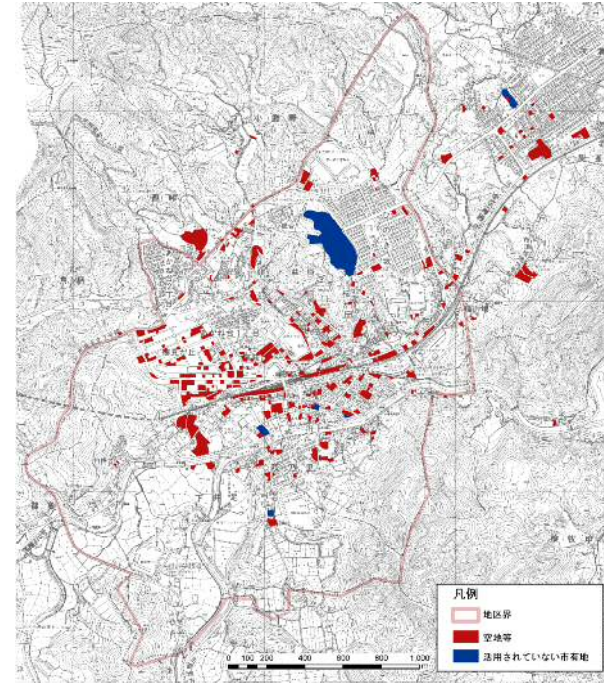
3-3 都市機能等に関する現況と課題

都市機能の集積と低・未利用地

- 本地区は宇陀市の拠点としての役割を反映し、全市を対象とした公共施設、公益施設が多数立地している。
- 各施設は地区内に点在している。



- 多数の空地等が分布。
- 遊休化・未活用・低利用の公共施設跡地・公有地がある。



資料：平成26年度宇陀市都市計画基礎調査及び宇陀市資料

課題

◇拠点的な公共施設・公益施設が多数立地しているが、施設が地区内に点在。

◇公有地を含め、低・未利用地が多数分布。



図 市役所向かい側の市有地の現況



図 ひのき坂西側の市有地の現況



図 東町西峠線駅西交差点の隣接地の現況

- 蔵書数が増加し、書架が不足していることから、旧伊那佐小学校校舎を書庫として活用している。（全蔵書数の11.6%）
- 宇陀市榛原総合センター及び宇陀市中央図書館は雨漏りがみられるなど施設が老朽化している。

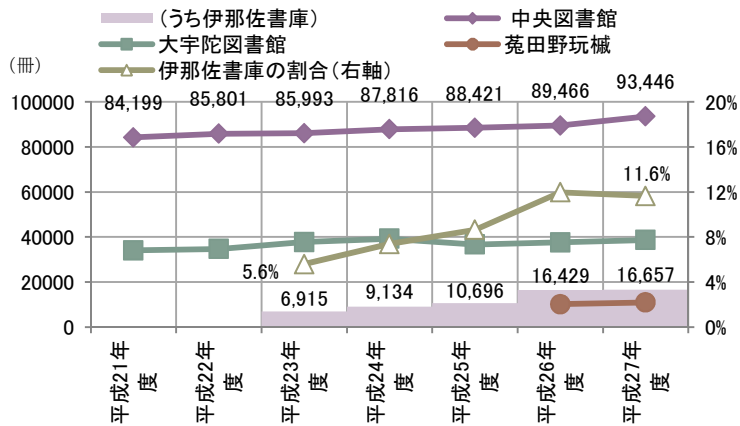


図 図書館の蔵書数の推移

資料：市資料

- 宇陀市榛原総合センター及び宇陀市中央図書館では子ども（親子）向けのものを中心として多数のイベントを開催しており、イベント時は駐車場が不足している。
- 施設玄関と駐車場の間に市道があり、施設利用者の安全確保に対し、不安の声が聞かれる。

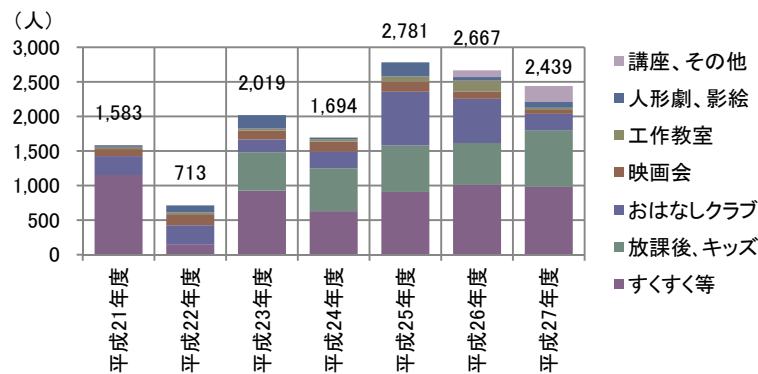


図 イベントの年間参加者数の推移

資料：市資料

- 宇陀市立病院は大半の患者は自動車で来院しているが、駐車場が不足しており、近隣の民地等を駐車場用地として賃借している。



図 市立病院の状況

- 周辺地区も含めると、保育園2園、幼稚園3園が立地。定員充足率は低く、施設は余剰傾向である。将来的にも少子化の傾向が見込まれるため、これらの施設の余剰化傾向は拡大する可能性が高い。
- 市立の保育所1園、幼稚園3園はいずれも築年数が40年前後に達しており、更新期を迎えている。



図 榛原北保育園

課題

◇宇陀市中央図書館は老朽化、かつ施設容量不足。

◇市立病院来院者向け駐車場が不足。

◇公立の幼稚園3園・保育所1園は、老朽化しており、かつ余剰傾向が今後も拡大する可能性。

3-4 居住環境に関する現況と課題

- 人口増加している小地域（p15参照）は、榛見が丘1丁目及び2丁目など一部である。他の多くの小地域は人口減少している。
- 萩原交差点付近（大字萩原12）の高齢化率は50%強、伊勢本街道沿い（大字萩原5、7等）は40%前後となっている。
- 高齢化の進行を踏まえ、宇陀市では県のモデル地区として宇陀市地域包括ケアシステム推進事業に取り組んでいる。

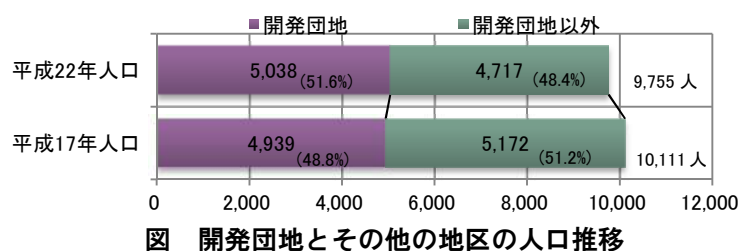


図 開発団地とその他の地区の人口推移

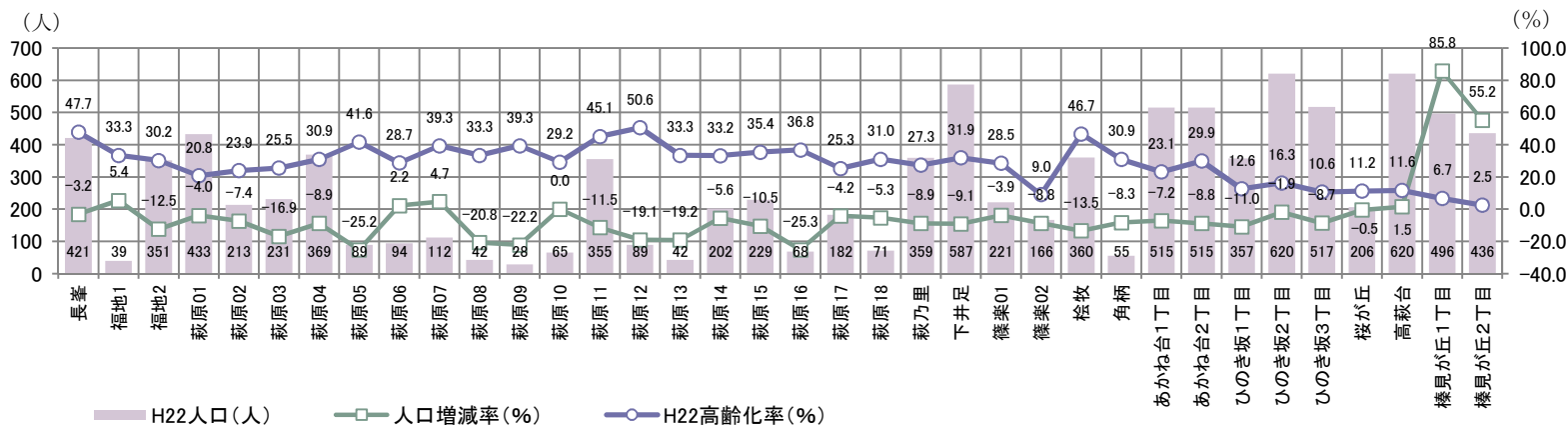


図 小地域別人口 (H22)、人口増減率 (H17→H22)、高齢化率 (H22)

資料：国勢調査

- 平成17年人口に占める開発団地の割合は48.8%であったのに対し、平成22年には51.6%と過半を占めるようになった。
- 開発団地やマンションをはじめとする都市型住宅の増加に伴い、都市的なライフスタイルをもつ住民が増加している。
- 自治会未入会、地域活動への不参加や近所付き合いの希薄化、孤立化等がみられるようになっている。
- 地域コミュニティを形成し、住民の交流等を活発にするために、榛原地区まちづくり協議会（平成26年）、大王地区まちづくり協議会（平成27年）が発足し、各種取組を進めている。
- 宇陀市まち・ひと・しごと創生総合戦略において、「地域連携の強化」を打ち出し、まちづくり協議会を中心に市民が主役の地域づくり・まちづくりによる地域連携の強化を目指している。特に、「活力ある地域づくりは、まち協から」事業では、まちづくり協議会を中心に事業展開を行い、地域の連携と地域の課題解決を図るとともに、地域の中での経済循環の仕組みを形成することにより、市民主導でまちの賑わいを生み出すこととなっている。

課題

- ◇近所付き合いや地域コミュニティの活力低下。
- ◇まちづくり協議会を中心とした市民の取組のさらなる活性化。

- 開発団地においても一部の小地域を除き人口が減少している。
- ひのき坂1丁目及び3丁目、あかね台2丁目、小鹿台では世帯数が減少している。
- 開発団地においても全ての小地域で高齢人口が増加している。
- ひのき坂や小鹿台、萩乃里などでは若年人口が減少している。
- ひのき坂1丁目及び3丁目、あかね台2丁目、萩乃里、小鹿台、白樺台で持ち家に住む世帯数が減少しており、空き家の増加が懸念される状況となっている。

※天満台西1～4丁目、天満台東1～4丁目は対象地区外であるが、萩乃里と同時期に着工した団地であり、その傾向をみるためグラフに加えている。なお、p13上のグラフ（開発団地とその他の地区の人口推移）には天満台は含まない。

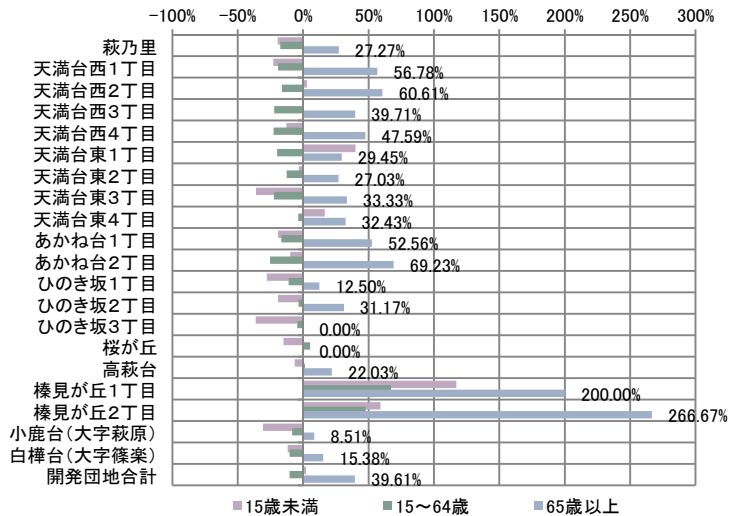


図 年齢別人口の増減率

資料：国勢調査

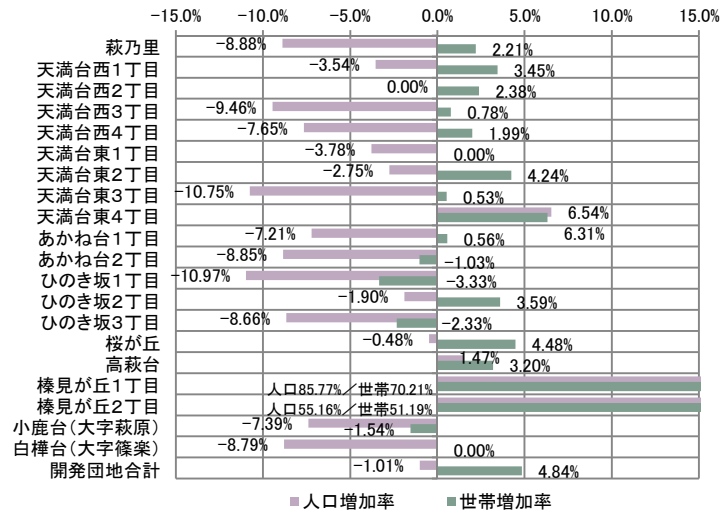


図 開発団地の人口・世帯の増減率

資料：国勢調査

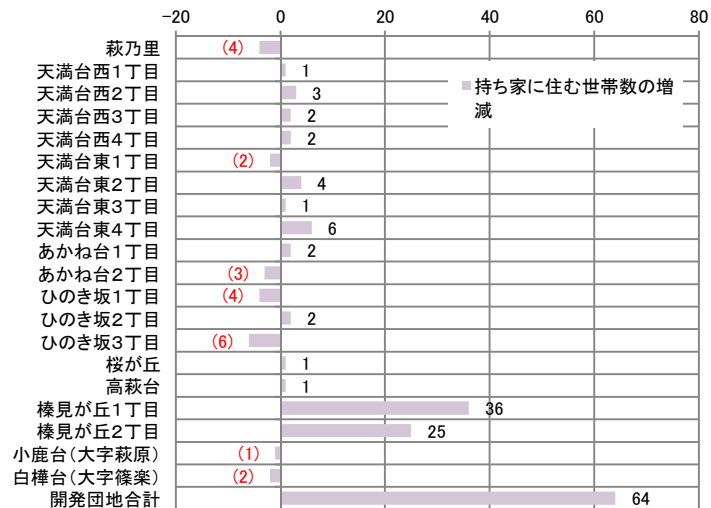


図 持ち家に住む世帯の増減数

資料：国勢調査

課題

◇ひのき坂などをはじめ、若年者の減少と高齢者の急増に加え、世帯数の減少、空き家の増加がみられ、今後さらに地域活力の低下や防犯・防災上の問題が拡大する懸念。

(開発団地以外も含む)

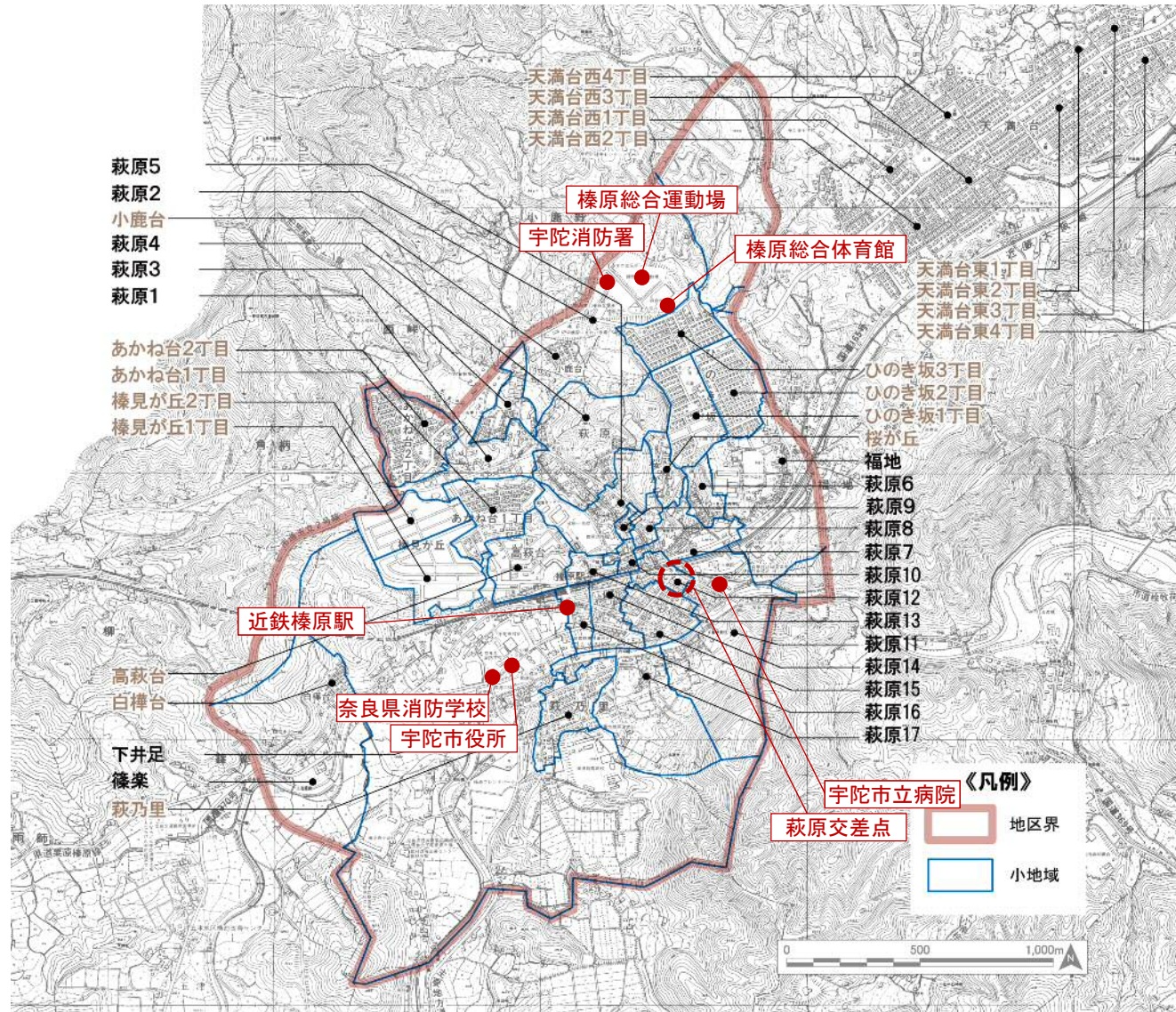


図 小地域の位置

※小地域とは、平成22年国勢調査において詳細な地域分析を行うことを目的として町丁・字等の別に集計された調査区域。茶文字は開発団地（開発団地は対象地区外も含む）。

3-5 交通利便性に関する現況と課題

- 近鉄榛原駅前から市内各方面に路線バス7系統（奈良交通6系統、宇陀市営有償バス1系統）が運行されており、近鉄榛原駅前が各方面へのバス交通の拠点となっている。
- 榛原ネオポリス線の運行本数が最も多く、大宇陀線が続いている。市内各方面から近鉄榛原駅前までの一定の交通アクセスは確保されているが、各地域拠点間、あるいは観光施設間のバスによるアクセス利便性は確保されていない。



図 バス、デマンドタクシー体系図

- 対象地区には近鉄榛原駅前(南北2箇所)を含め11箇所のバス停がある。
- バス停から300mの利用圏をみると、ひのき坂や国道165号沿道上ノ町交差点にかけての区域など、バス利用の利便性が確保できていない区域がみられる。
- また、路線バスを運行する奈良交通に対して、上屋設置などバス停機能の向上等が市民要望として寄せられている。

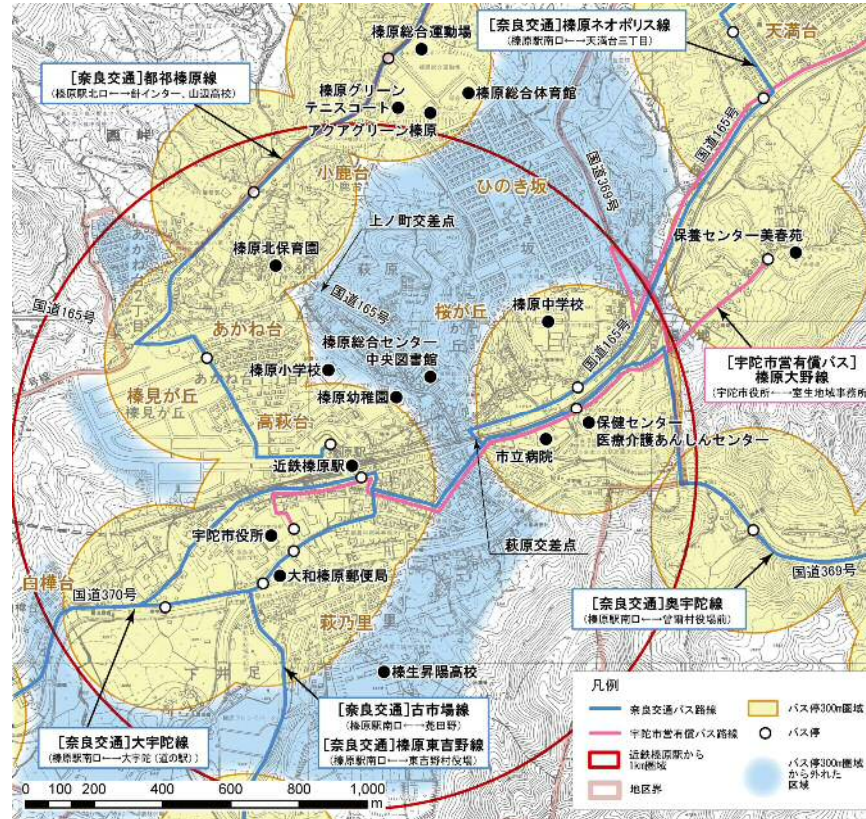


図 バス路線・停留所位置及びバス停300mの圏域

資料：宇陀市資料

課題

◇一部の区域では、バス利用の利便性が確保できていない。

○人々の移動手段は、自動車が占める割合が、平日 6 割強、休日 7 割強と圧倒的に多い。鉄道は平日で 12%、休日は 7%にとどまる。

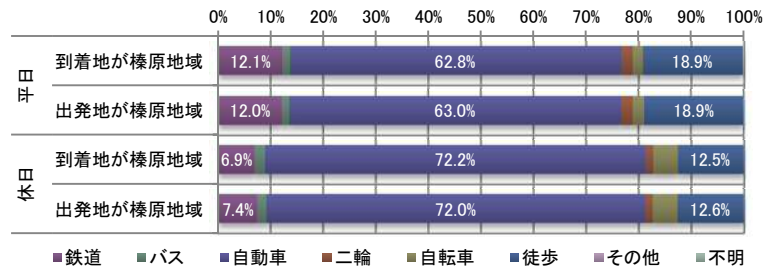


図 移動手段

○人々の移動は、市内の流動量が平日 7 割、休日 6 割強を占め、市外は平日 3 割、休日 35%程度にとどまる。

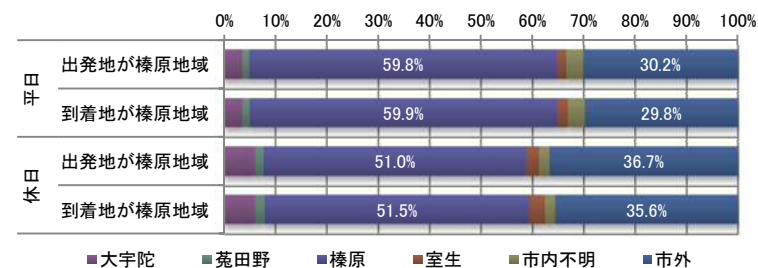


図 他都市・地域間の流動割合

○市内の旧 4 町村間の流動をみると、大宇陀・榛原間が最も活発で、続いて榛原・室生間、菟田野・榛原間と、榛原の拠点性が強い。手段別（休日）にみると、自動車が圧倒的に多いが、榛原・室生間は自転車が 11.6%と比較的多くなっている。

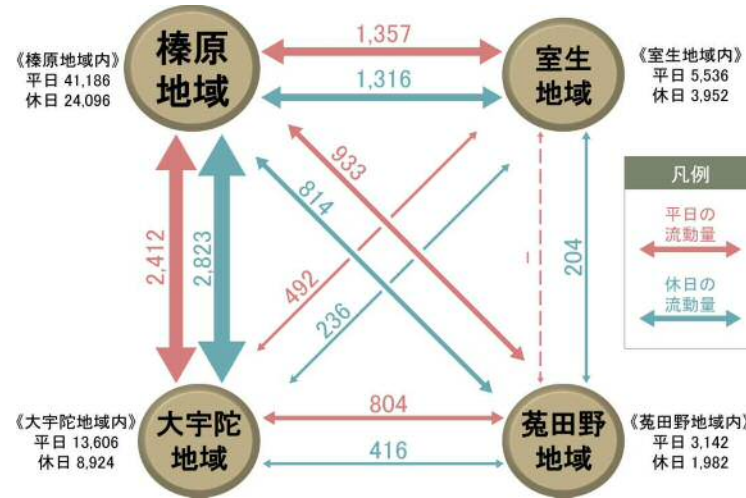


図 宇陀市内の流動状況

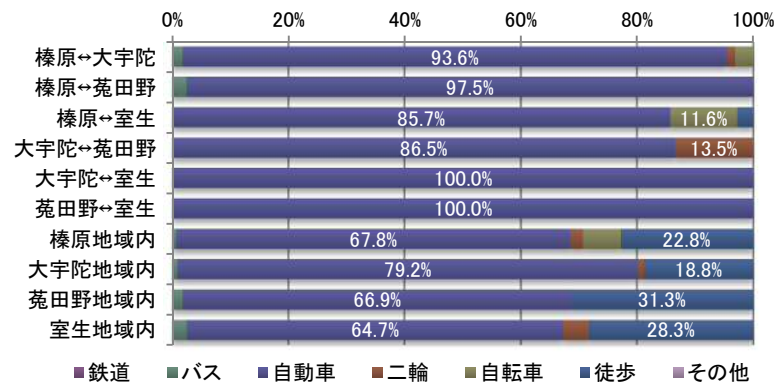


図 宇陀市内の手段別流動割合（休日の場合）

資料：以上、第 5 回（平成 22 年）近畿圏パーソントリップ調査

課題

◇人々の移動手段は自動車が圧倒的に多いが、高齢者をはじめとする交通弱者が必要とする公共交通の確保が不可欠

- 市街地が近鉄大阪線により南北に分断されている。
- 計5箇所の踏切及びアンダーパスはいずれも自動車の通行になんらかの支障がある。
- 昭和50年代から平成年代にかけて近鉄大阪線北側に宅地開発が相次いだことで、北側市街地の人口が急増した。
- 宅地開発地区に居住する住民が、近鉄大阪線南側の商業・業務エリアの施設やサービスを利用するためには、計5箇所のアンダーパス、踏切のいずれかを通行する必要がある。



図 南北市街地を結ぶ道路の状況

課題

◇北側の住宅地から南側の市街地へ自動車アクセスするルートはいずれも幅員が狭く、自動車の円滑な交通と歩行者の安全が確保されていない。

○長谷寺第7号踏切は、幅員は4メートルと狭い。国道370号に接続していることもあり、特に夕方の交通量が多い時間帯を中心に混雑している。歩行者もいるため、歩行者の安全確保が必要である。



図 長谷寺第7号踏切の12時間交通量
(平成28年9月15日調査)

資料：市資料

○商業・業務エリア側を出発地あるいは目的地とするものが8割強、開発団地側を出発地あるいは目的地とするものが約3分の2を占めている。

○市外を出発・目的地とするものは、北側からの流入・流出が25%前後を占めている。

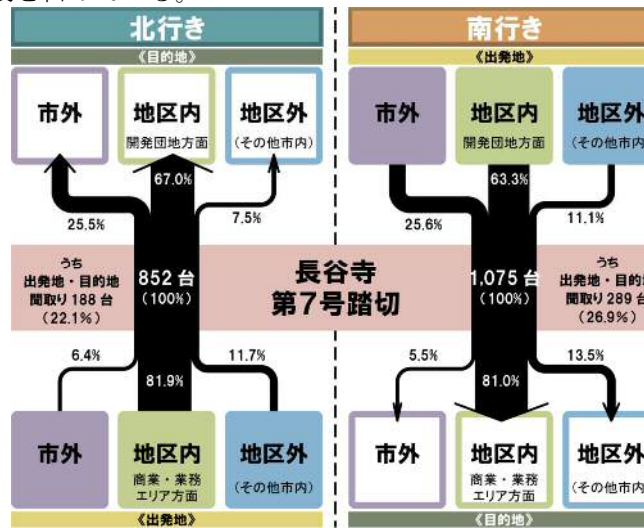


図 長谷寺第7号踏切の出発地・目的地別交通量
(平成28年9月15日)

資料：市資料

○踏切は普通車がすれ違えないため、夕方などの通行量が多い時間帯は国道370号に左折待ちの自動車が10台前後並ぶことがある。また、反対車線にはみ出して、車列を追い越す車もみられるなど、極めて危険である。

○南北を行き来する歩行者もみられるが、踏切だけでなく、国道370号にも歩道がなく、歩行者の安全確保の面でも問題がある。



図 長谷寺第7号踏切の様子

課題

◇交通量が多い長谷寺第7号踏切では国道370号に面し、幅員が狭く自動車の行き違いができないことから、渋滞がみられるなど自動車の円滑な交通と歩行者の安全が確保されていない

○萩原交差点は、変則7叉路であり、通行量も多い。

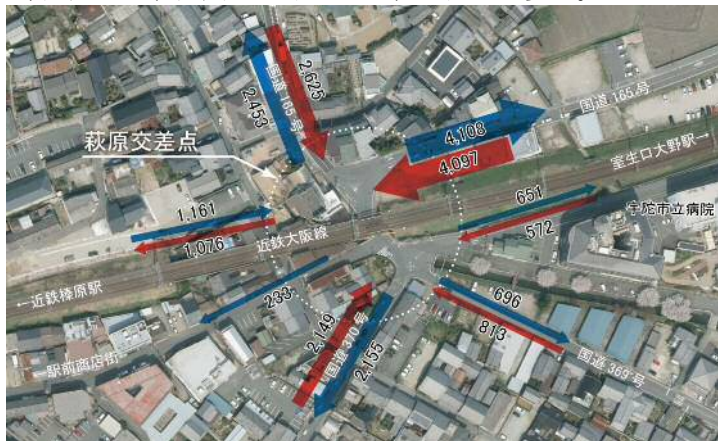


図 萩原交差点の12時間交通量（平成28年3月8日）

資料：一般国道165号福地交差点道路課題検討業務委託報告書

○交差点のうち、特に近鉄大阪線高架下は歩道が非常に狭く、歩行しにくい。自動車通行量も多いため歩行者には危険。



図 萩原交差点（南側から）

○駅前や駅前商店街から市立病院へと向かう主要なアクセス道路は、交通が混雑する萩原交差点を通るため、自動車による市立病院へのアクセス利便性は低い状況にある。

○駅南の中心市街地では、国道370号や国道165号をはじめ、連続する歩行環境が確保されていない。

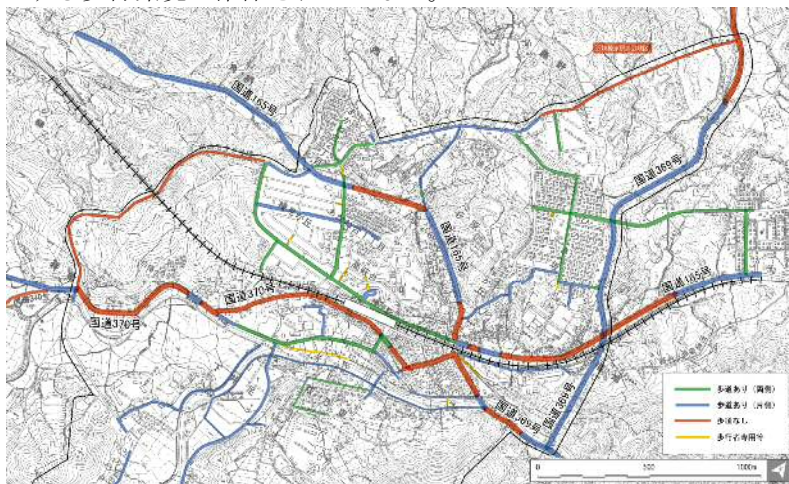


図 歩道の設置状況

資料：現地調査及びGoogle Map



国道370号（駅前から西側）



国道370号（萩原交差点西側）



国道165号（萩原交差点北側）
《整備中》

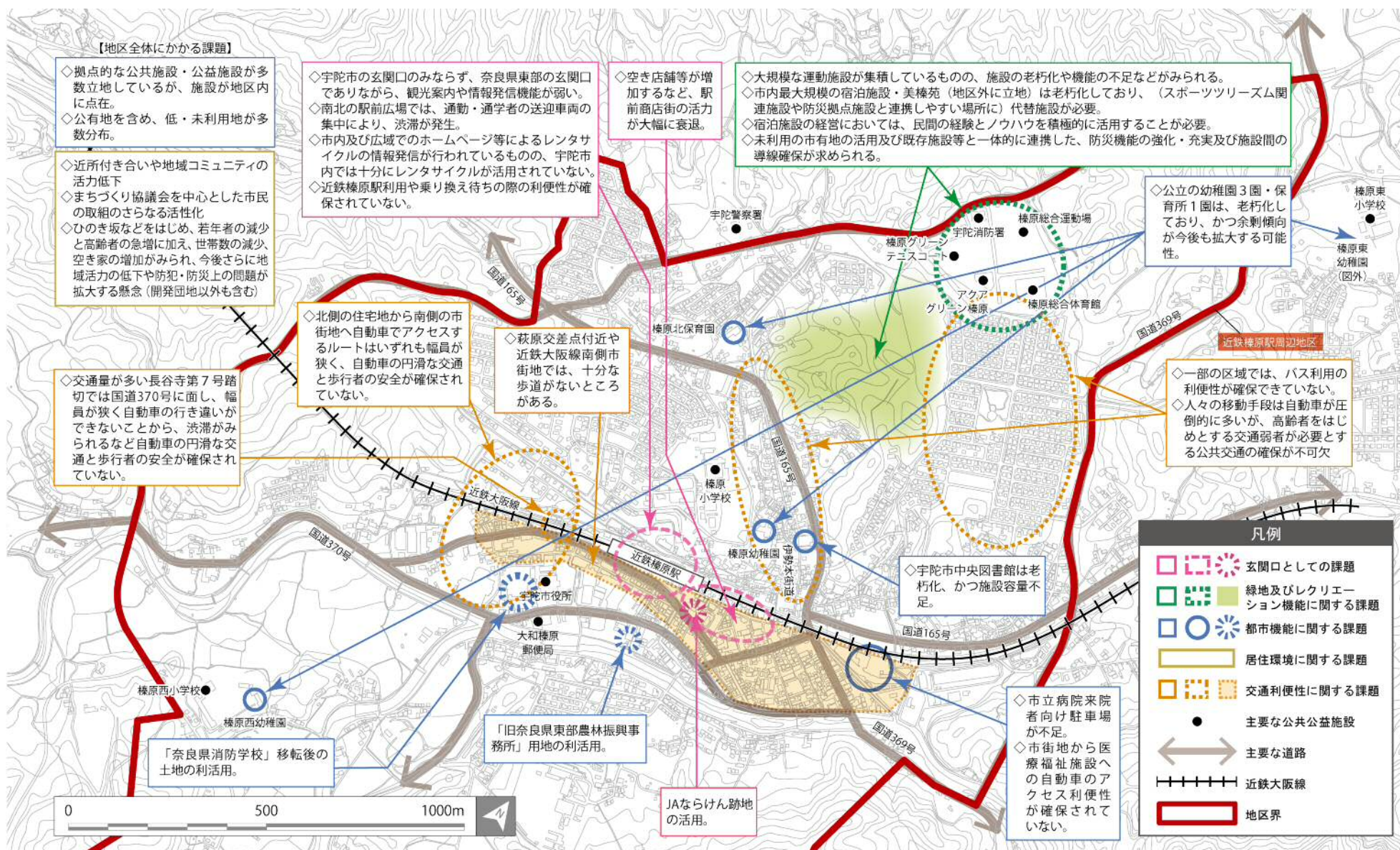


国道165号（萩原交差点東側）
《片側歩道整備済、暫定供用中》




課題

- ◇市街地から医療福祉施設への自動車のアクセス利便性が確保されていない。
- ◇萩原交差点付近や近鉄大阪線南側市街地では、十分な歩道がないところがある。

3-6 まちづくりの課題図



4-3 まちづくりの基本方針

課題		基本方針	施策展開の方針
<ul style="list-style-type: none"> ◇宇陀市の玄関口のみならず、奈良県東部の玄関口でありながら、観光案内や情報発信機能が弱い。 ◇空き店舗等が増加するなど、駅前商店街の活力が大幅に衰退。 ◇南北の駅前広場では、通勤・通学者の送迎車両の集中により、渋滞が発生。 ◇市内及び広域でのホームページ等によるレンタサイクルの情報発信が行われているものの、宇陀市内では十分にレンタサイクルが活用されていない。 ◇近鉄榛原駅利用や乗り換え待ちの際の利便性が確保されていない。 		交通結節機能の向上と観光情報の発信等による宇陀市の顔づくり	<ul style="list-style-type: none"> (1) まちの駅整備等による近鉄榛原駅の結節機能の強化 (2) 多目的広場等の整備による、観光情報の発信や地元特産品の販売強化等によるまちのにぎわい創出 (3) 飲食店・物販店の立地誘導や空き店舗活用等による商店街の活性化 (4) 商店街の活性化にむけた体制強化
<ul style="list-style-type: none"> ◇大規模な運動施設が集積しているものの、施設の老朽化や機能の不足などがみられる。 ◇市内最大規模の宿泊施設・美榛苑（地区外に立地）は老朽化しており、（スポーツツリーズ関連施設や防災拠点施設と連携しやすい場所に）代替施設が必要。 ◇宿泊施設の経営においては民間の経験とノウハウを積極的に活用することが必要。 ◇未利用の市有地の活用及び既存施設等と一体的に連携した、防災機能の強化・充実及び施設間の導線確保が求められる。 		既存施設の利用増進と保養・宿泊施設の立地促進による健康増進・防災拠点づくり	<ul style="list-style-type: none"> (1) 宿泊施設及び関連施設の誘致と周辺地区の土地利用の促進及び施設間の導線の確保 (2) 大規模災害時に防災拠点として活用できる公園等の整備 (3) 既存施設の更新・機能向上とイベント開催等による利用増進
<ul style="list-style-type: none"> ◇拠点的な公共施設・公益施設が多数立地しているが、施設が地区内に点在。 ◇公有地を含め、低・未利用地が多数分布。 ◇宇陀市中央図書館は老朽化、かつ施設容量不足。 ◇市立病院来院者向け駐車場が不足。 ◇公立の幼稚園3園・保育所1園は、老朽化しており、かつ余剰傾向が今後とも拡大する可能性。 		低・未利用地の活用等による市民の生活利便性の向上	<ul style="list-style-type: none"> (1) 公有地等を活用した生活利便施設や公共施設（幼保一元化や図書館等）の再編・再配置及び機能強化
<ul style="list-style-type: none"> ◇近所付き合いや地域コミュニティの活力低下。 ◇まちづくり協議会を中心とした市民の取組のさらなる活性化。 ◇ひのき坂などをはじめ、若年者の減少と高齢者の急増に加え、世帯数の減少、空き家の増加がみられ、今後さらに地域活力の低下や防犯・防災上の問題が拡大する懸念。（開発団地以外も含む） 		長く暮らせる住まいづくりの支援と地域コミュニティの活性化	<ul style="list-style-type: none"> (1) まち協業の充実による地域コミュニティ活動の活性化 (2) 子育て世帯等への支援拡充による若年世帯の定住促進 (3) ウェルネスシティうだ推進事業による高齢者の支援や健康増進のためのサービス等の強化 (4) 住まいのバリアフリー化の支援 (5) 空き家情報バンクの充実等による空き家対策の推進
<ul style="list-style-type: none"> ◇一部の区域では、バス利用の利便性が確保できていない。 ◇人々の移動手段は自動車が圧倒的に多いが、高齢者をはじめとする交通弱者が必要とする公共交通の確保が不可欠。 ◇北側の住宅地から南側の市街地へ自動車アクセスするルートはいずれも幅員が狭く、自動車の円滑な交通と歩行者の安全が確保されていない。 ◇交通量が多い長谷寺第7号踏切では国道370号に面し、幅員が狭く自動車の行き違いができないことから、渋滞がみられるなど自動車の円滑な交通と歩行者の安全が十分に確保されていない。 ◇市街地から医療福祉施設への自動車のアクセス利便性が確保されていない。 ◇萩原交差点付近や近鉄大阪線南側市街地では、十分な歩道がないところがある。 		広域及び地域内の交通体系の確保	<ul style="list-style-type: none"> (1) 鉄道による市街地分断の改善 (2) 宇陀市立病院等、医療福祉施設方面へのアクセスの改善 (3) コミュニティバス等市内移動、地域内移動の利便性確保 (4) 安全な歩行環境の確保

4-4 まちづくり構想図

